

【令和4年度 第2回 茨城県文化審議会】

部活動の今とこれから

令和4年12月21日(水)

茨城県教育委員会

部活動が培ってきたもの

スポーツ、芸術文化等の
幅広い活動機会

体力や技能の向上

豊かな学校生活を
実現する役割

集団での活動を通じた
人間形成の機会

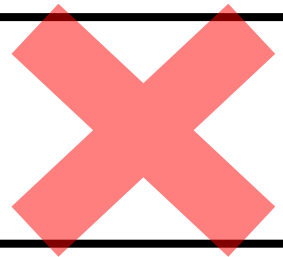
多様な生徒が
活躍できる場

部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであり、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、学習指導要領に位置付けられた活動である。一方、**必ずしも教師が担う必要のない業務と位置付けられている。**

部活動の現状

●勝利至上主義に傾倒した指導

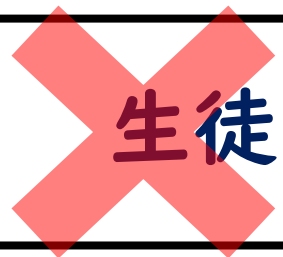
●適切な休養を度外視した活動



スポーツ・文化芸術活動を楽しむ基盤を培う

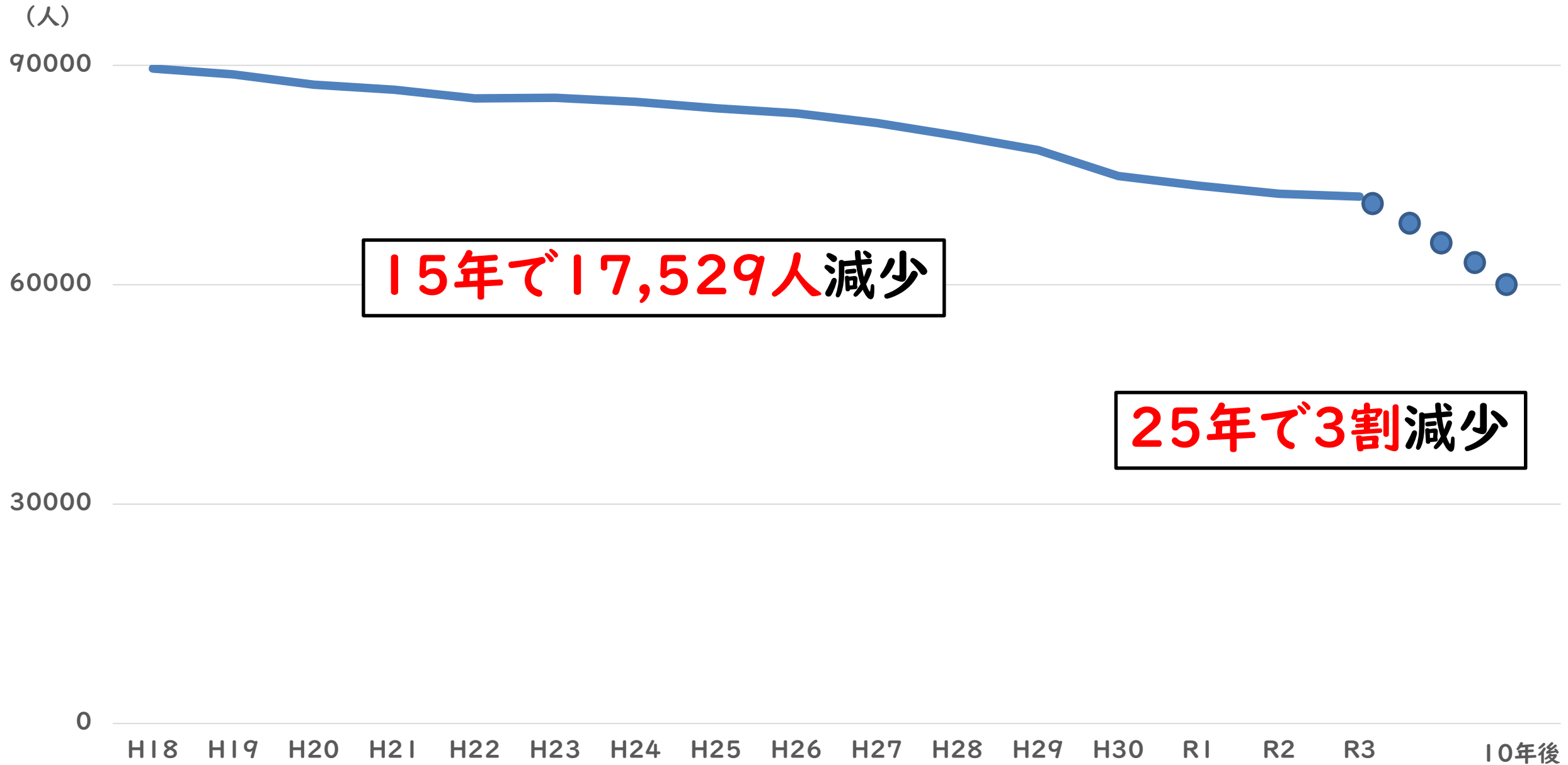
●競技志向やレクリエーション志向等

●やりたい部活が学校にない

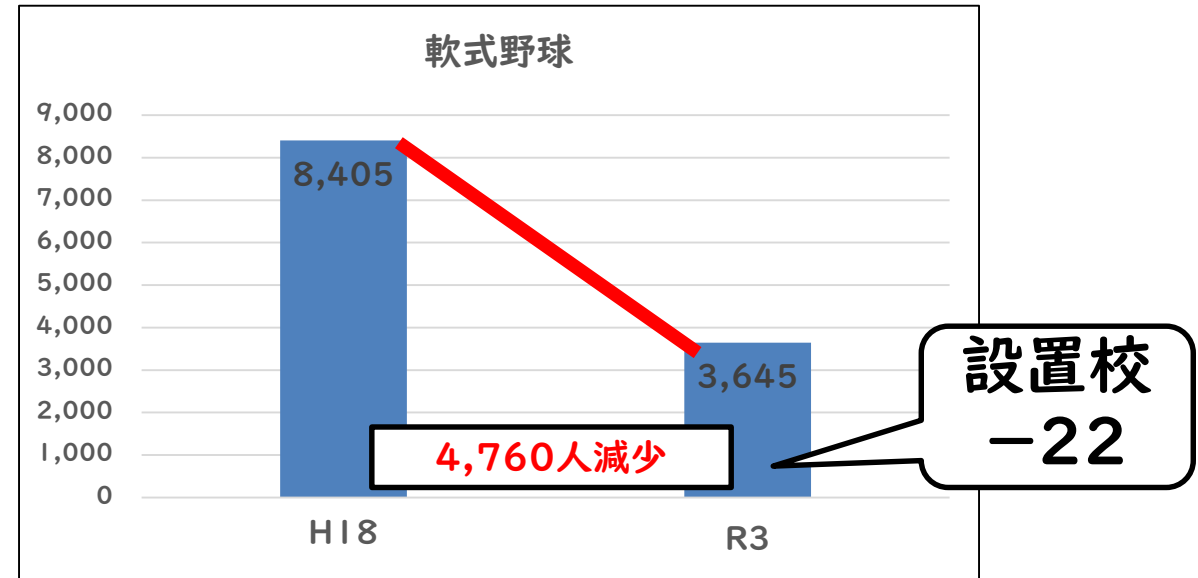
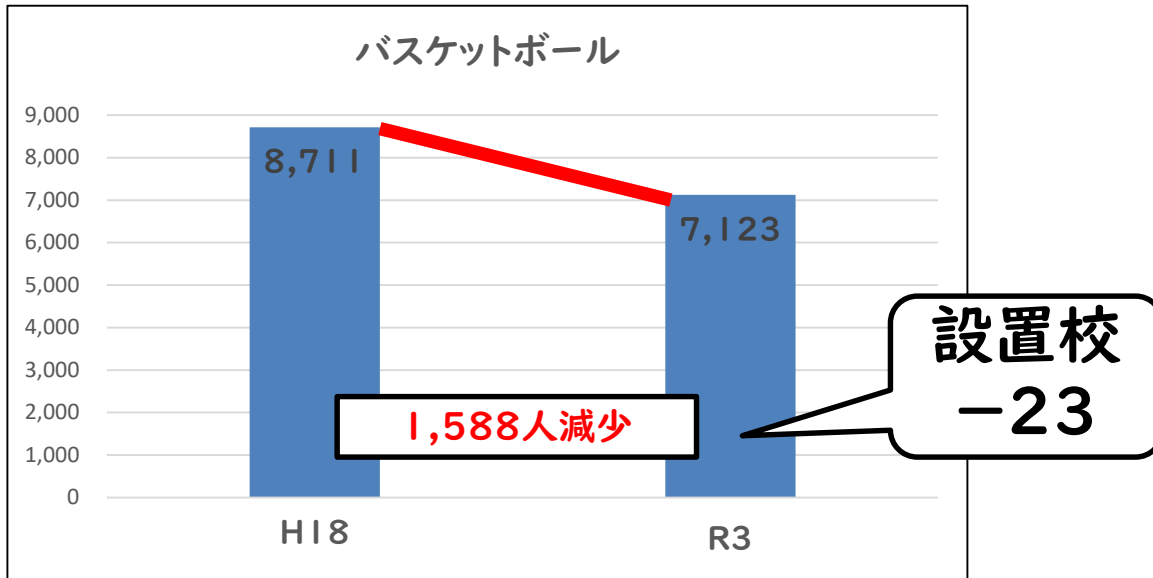
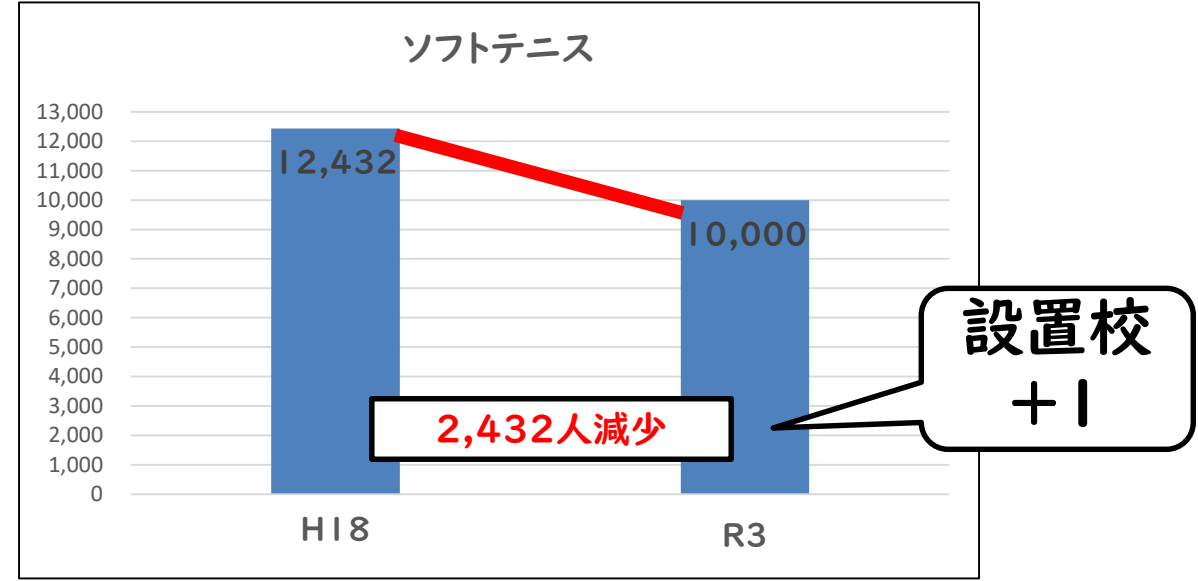
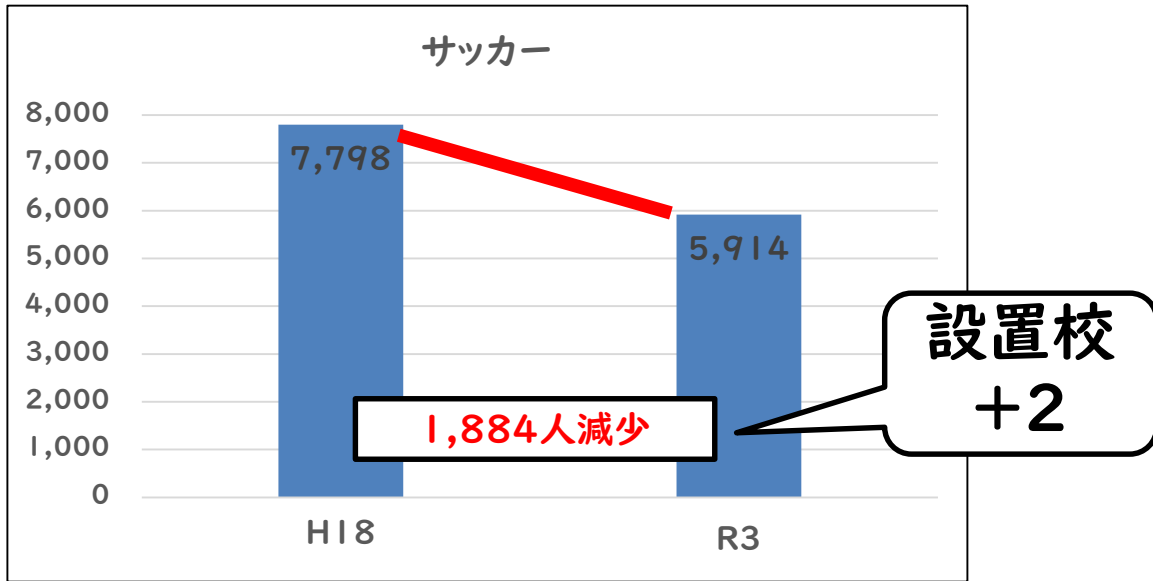


生徒一人一人のニーズに応じたスポーツ・文化芸術活動

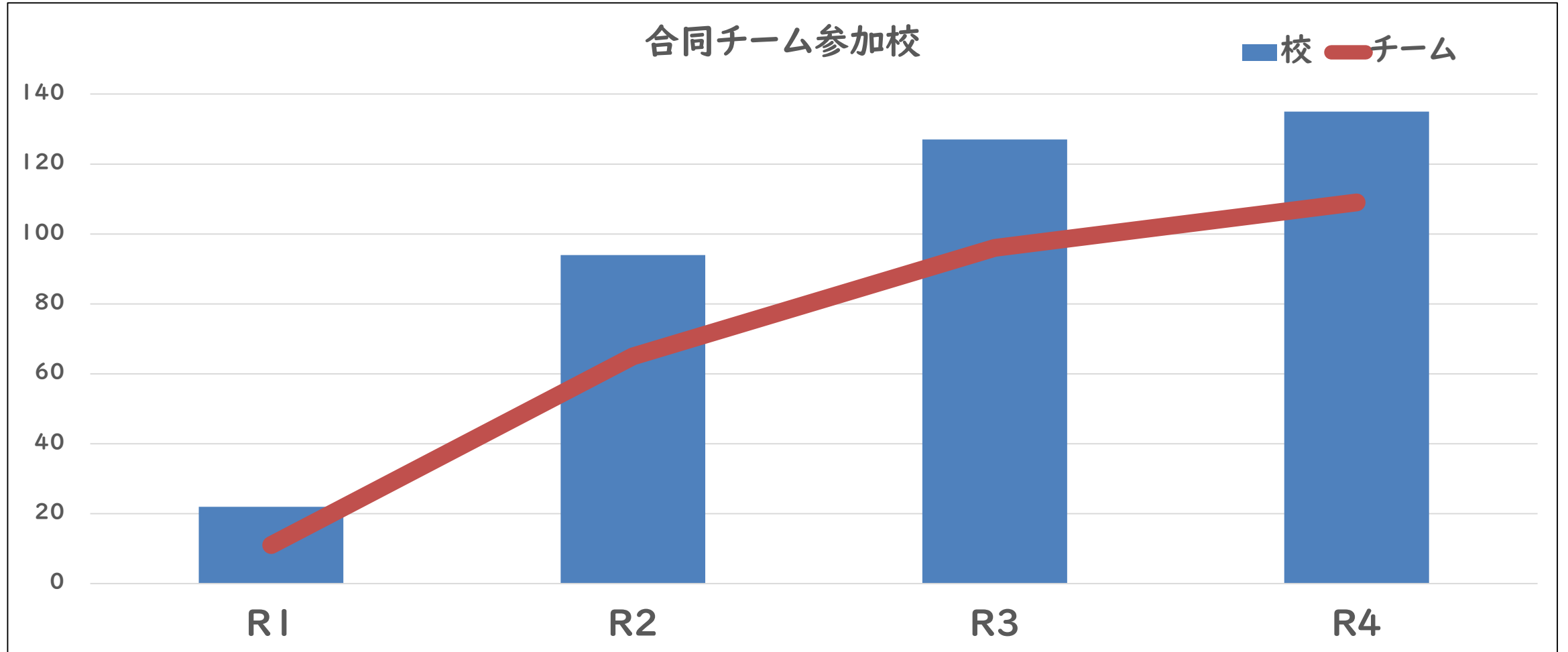
茨城県中学校生徒数



部活動の参加人数と設置状況



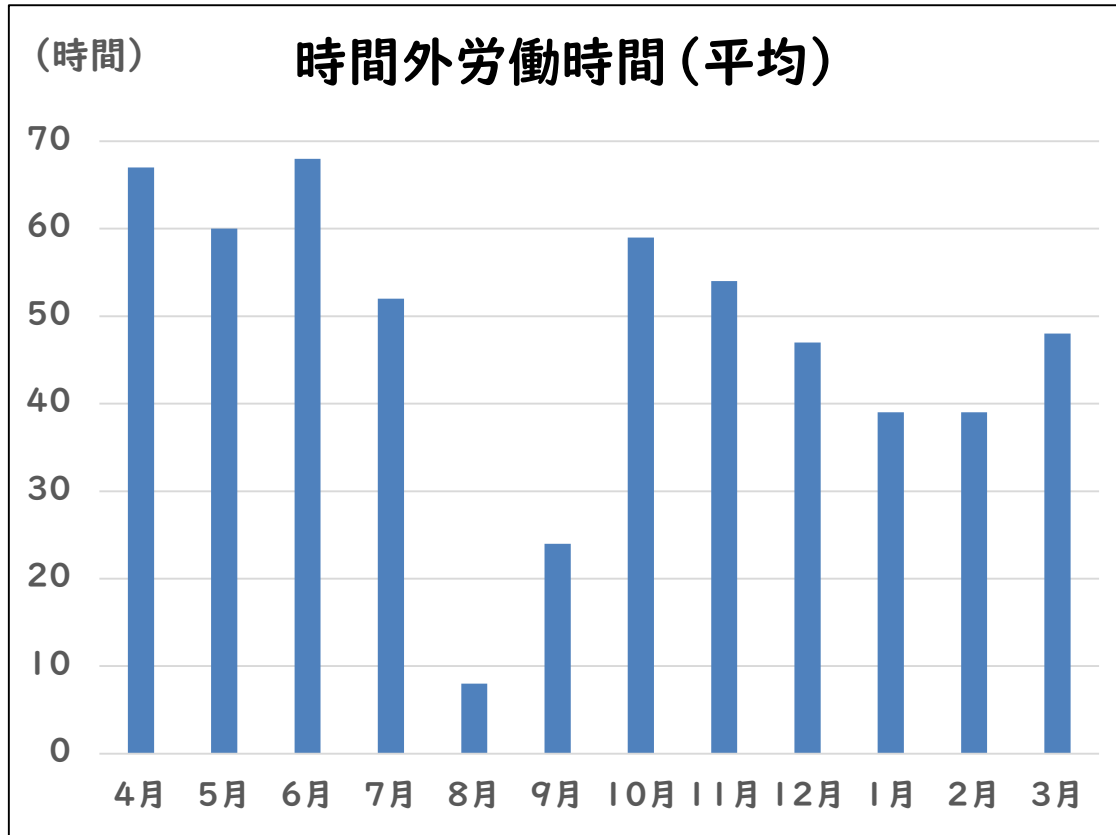
合同部活動



※H30以前の参加校なし
※中体連調べ

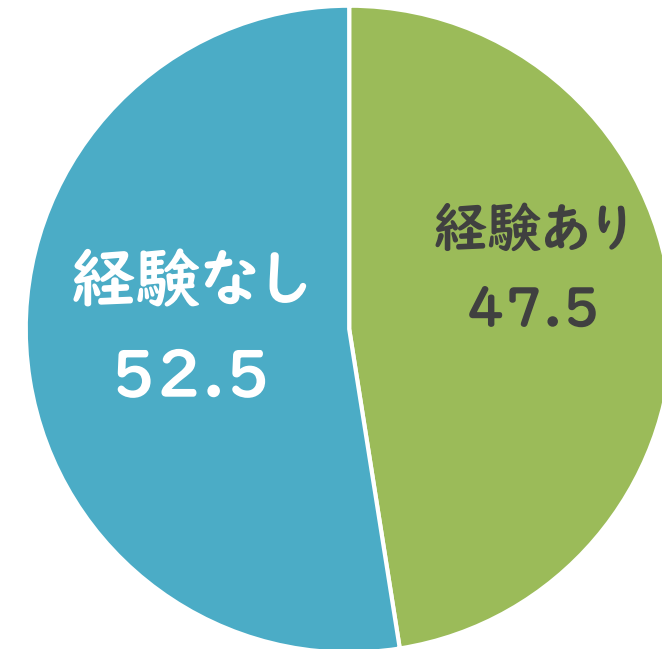
参加校、参加チームともに **増加傾向**

教員の状況



年間平均47時間
(80時間超えの教員 平均12.3%)
→部活動指導が要因(7割弱)

経験のない部活動の顧問である教員の割合(R3、中学校)



教員の負担増

地域移行に関する国の方針

国の方針 ※中学校

- 休日の部活動を段階的に地域移行
- 令和5～7年度を改革集中期間に位置付け

生活困窮家庭への補助検討

学習指導要領次期改訂時見直しの検討

平日もできるところから移行



県の取組

「県部活動の運営方針」の策定（令和元年11月）

- 自主的、自発的な参加
- 部活動への参加の義務付け
- 活動の強制

- 活動時間や休養日の設定
- 週当たり2日以上の休養日
(平日1日、週末1日以上)
- 平日2時間程度
休業日3時間程度

ケガ、傷害

バーンアウト

徹底されていない現状

【県有識者会議 提言の4つの柱】について

- I 「県部活動の運営方針」に定めた**活動時間等の遵守や見直し**を図ること
- II 学校部活動は、**生徒による主体的な企画・運営**とし、**学校における位置づけを見直す**こと
- III **生徒がニーズに応じて地域で活動できる環境を確立**すること
- IV 学校の働き方改革を徹底し、**教員が本務に専念できる環境を確立**すること

地域移行

「中学校・高校部活動改革」～部活動を「地域移行」へ～

- ★生徒の望ましい成長を保障するため、持続可能で多様なスポーツ・文化芸術環境を整備
- ★教員が本務に専念できる環境の整備し、教育の質の向上を目指す

今後の取組方針

- 休日の部活動を段階的に地域移行
- 休日部活動の教員指導時間を0へ
 - ※中学校は令和7年度末まで、高校は令和8年度末までを目標に

県としての取組

- 市町村への支援
 - ・コーディネーター配置
 - ・運営主体整備
 - ・指導者の発掘、確保
- 生徒・保護者・県民への啓発
 - ・リーフレットや動画の作成 など

「地域移行」のイメージ



- ① 総合型地域スポーツクラブ
- ② 拠点校型
- ③ 学校設立型
- ④ 単一スポーツクラブ型
- ⑤ 企業・大学連携型
- ⑥ 行政主導型



※本県では、高校についても、一部地域移行に取り組んでいます。

地域移行の例

市区町村が、スポーツ・文化芸術団体、大学、民間事業者、地域学校協働本部等と連携

指導者

学校施設



野球

バスケットボール

吹奏楽

バレーボール

複数種目

レクリエーション

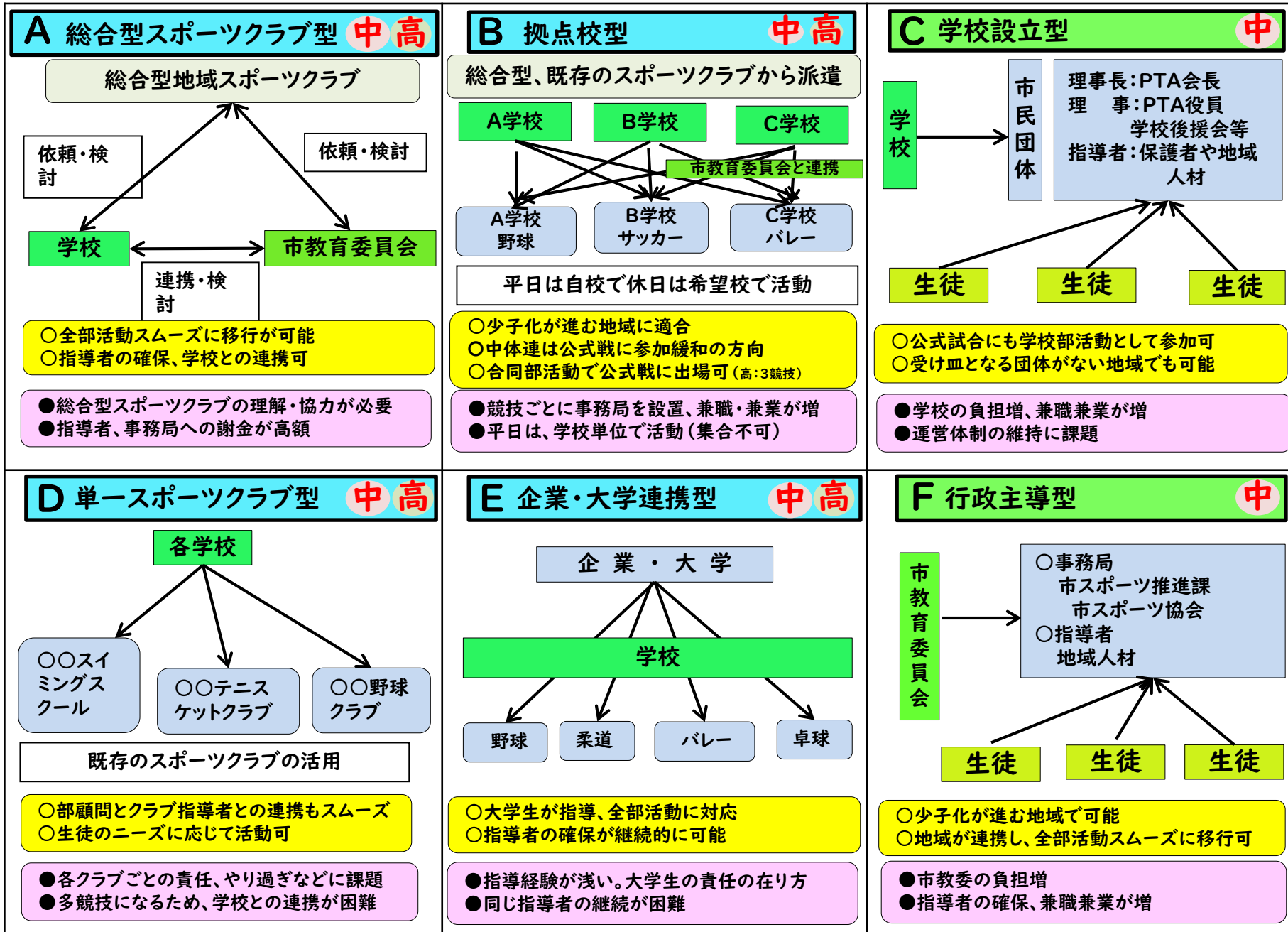
参加

○○中学校

△△中学校

◆◆中学校

地域移行パターン



令和3・4年度モデル校 水戸市立双葉台中学校

(NPO法人)

オーカスポーツマネジメント (事務局)

地域の人材

派遣



5つの部活動

男子ソフトテニス部

女子ソフトテニス部

男子バスケットボール部

剣道部

男子卓球部



※休日の地域移行「総合型地域スポーツクラブ」

ニーズに応じた
専門的な指導

<休日の活動>

- ・基本から学べる
- ・技術を習得できる
- ・仲間と一緒に楽しめる



※平日の部活動は学校の顧問教員が指導にあたっています



令和3・4年度モデル校のアンケート結果

※令和3年度アンケート結果から抜粋

○生徒の声

- ・「指導内容やプログラム」 → 約75%が「十分満足」「やや満足」
- ・「自身の技術の上達」 → 約90%が「上達」「やや上達」
- ・「部活動の楽しさ」 → 約60%が「楽しくなった」

○保護者の声

- ・「地域部活動の取組」 → 約75%が「十分満足」「やや満足」
- ・「月謝が発生すること」 → 約90%が「当然」「仕方ない」

5回にわたる保護者説明会を開催

→ 保護者の理解を得た上で実施

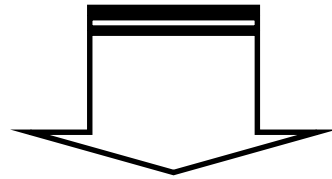
モデル校の実践から見えてきた課題

※令和3年度アンケート結果から抜粋

【課題】

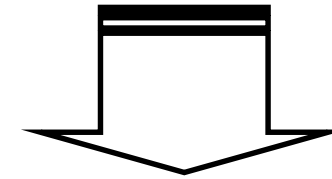
●人材の確保
(指導者の不足)

●保護者の負担増加
(指導料・交通費など)



地域移行後に兼職兼業で関わりたい
教員の割合

20.5% (R3、中学校)



困窮世帯への補助(国)

地域移行でかなう未来

◎ 子どもたちが

自らのニーズに応じた多様な活動ができる

◎ 学校の働き方改革が進み、**学校教育の質の向上につながる**

◎ 地域の活性化につながる

～子どもたちも徐々に**教え育てる立場に**

☞ 全ては子どもたちのため・地域のため

= 地域を支える人づくりに**還元**

